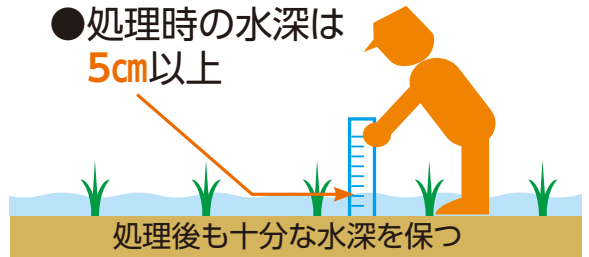




除草剤の使用は、ラベルの内容を注意事項までしっかりと確認しましょう。除草剤の有効成分は土壌表面に処理層を作ることによって効果を発揮します。処理層を壊さないために使用時や使用後の水管理が重要となります。

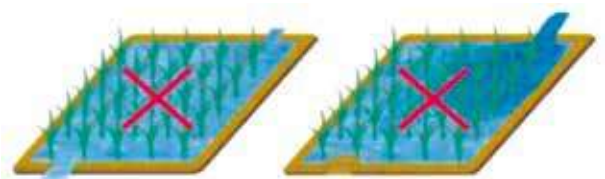
- 水稲用除草剤に貼付されているラベルには使用基準や使用上の注意事項が記載されていますので、その内容を遵守して使用する必要があります。
- 使用時の水深は5cm以上。特に、ジャンボ剤・フロアブル剤は必ず5～6cmの湛水状態を保って下さい。また、藻・浮草が発生していると、拡散が不十分となり効果が劣ることがありますので、使用時期の範囲内で早めに散布してください。

● 処理時の水深は
5cm以上



処理層をしっかり作るための水管理 (注意点)

- 1 除草剤がよく拡散するように、十分な湛水状態にしてください。
- 2 除草剤散布後3～4日間は通常の湛水状態を保ってください。
- 3 散布後7日間は落水・かけ流しをしないでください。
- 4 除草剤散布後は田んぼに入らないでください。散布後の補植はしないでください(除草剤散布前に済ませる)。
- 5 水持ちが悪いほ場でやむを得ず入水するような場合はなるべく静かに入水してください。



かけ流しはしない!

大量の水を一度に入れない!

散布後、処理層が形成・安定するまで約3日間かかります。この間の急激な入水・落水は効果の低下に直結します。

3日間は湛水を保つことを心がけ、7日間の止水管理を守りましょう。

J Aレーク伊吹の農家の方々へタイムリーな営農情報をお伝えします。

NEW

「営農タイムリー」公式LINE × J Aレーク伊吹

友だち追加



こんな情報を発信していきます!

- 農作物の病害虫発生
- 病害虫防除情報・肥料農薬商品情報
- 農作業安全啓発情報 etc...

← こちらの二次元コードを読みこんでください。

利用するには、まずLINEアプリの登録が必要で、お持ちのスマートフォンやタブレットなどから無料でダウンロードすることができます。「営農タイムリー」公式LINEを通じて、旬な営農情報を定期的に発信します。皆様のご登録をお待ちしております。